

配置予定技術者(監理技術者)の専任要件の緩和について

神奈川県(企業庁、教育委員会、警察本部を含みます)が発注(兼務する工事と、兼務の相手方とする工事の双方とも同様です)し、一定の条件を満たす工事について、監理技術者の専任に関する要件を、当面の間、次のように緩和します。

1 特例監理技術者の専任要件の緩和について

監理技術者の配置が必要となる建設工事について、監理技術者を補佐する者を配置するときは、監理技術者の複数現場の兼務を認めるものです(※)。このとき、兼務を行う監理技術者を『特例監理技術者』、特例監理技術者を補佐する者を『監理技術者補佐』とよびます。なお特例監理技術者は、本工事を含め2件まで兼務を認めます。

(※) 一定の条件を満たす場合であっても、工事の内容等により、監理技術者を専任で配置することを要件とする工事があります。(入札公告兼)入札説明書を必ずご確認ください。

特例監理技術者の兼務を認める工事

- ・ 請負代金額が2億円未満の工事
- ・ 請負代金額に拘らず総合評価落札方式(簡易型以上)以外の工事
- ・ 神奈川県(企業庁、教育委員会、警察本部を含む)発注の工事
- ・ 発注者が兼務を認めると指定した工事

2 特例監理技術者の配置要件(全て満たすこと)

- ア 特例監理技術者の職務を補佐する者として、『監理技術者補佐』を専任で配置すること。
- イ 兼務できる工事の範囲が、**神奈川県内**の工事であること。
- ウ 施工における主要な会議への参加、現場の巡回及び主要な工程の立会等の職務を適正に遂行すること。
- エ 特例監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡がとれる体制とすること。
- オ 特例監理技術者は、監理技術者補佐が担う業務等について、明らかにすること。

3 監理技術者補佐の資格要件(全て満たすこと)

- ア 一級施工管理技士補の資格を有する者又は一級施工管理技士等により監理技術者の資格を有する者であること。
なお、監理技術者補佐の建設業法第27条の規定に基づく技術検定種目は、特例監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。
- イ 競争参加資格確認申請日以前に、入札参加者と直接的かつ恒常的な3か月以上の雇用関係にあること。

4 入札時の手続きについて

- ・ 兼務を希望する場合は、落札候補者となった際に、速やかに兼務の意思を発注者に伝えるとともに、兼務の相手方となる工事の発注者に「専任を要する監理技術者の兼務届出書」(別添様式)を正副2通提出し、副本に当該者の押印を受けてください。
- ・ 事後審査中の発注者に、配置予定技術者届や現場代理人兼務届等の従前の書類のほか、前記「専任を要する監理技術者の兼務届出書」の副本を提出し、発注者の審査を受けてください。

5 その他

- ・ 本件緩和措置は、営業所における専任の技術者には、適用されません。
- ・ 兼務を認めた工事において、施工中に、兼務中の1件の工事が完了した場合は、特例監理技術者から監理技術者に変更となります。

専任を要する監理技術者の兼務届出書

商号又は名称

次の工事の現場に配置する専任を要する監理技術者について、1の工事を兼務させるので届け出ます。

発注機関名	〇〇土木事務所
工事番号	〇土〇〇
工事名	〇〇〇〇〇〇工事
工事場所	〇〇〇〇〇地内
工期	令和〇年〇月〇〇日から令和〇年〇月〇〇日まで
工種	〇〇〇〇
監理技術者氏名	〇〇〇〇
資格	一級〇〇施工管理技士
備考	〇〇〇〇

注) 専任を条件とする工事や営業所における専任の技術者については、他の工事を兼務できません。

監理技術者を補佐する者（監理技術者補佐）について

監理技術者補佐氏名	〇〇 〇〇
工種	〇〇〇〇
資格	〇〇〇〇
備考	

注) 監理技術者補佐については、他の工事を兼務できません。

現場代理人について

現場代理人氏名	〇〇 〇〇
現場代理人住所	〇〇〇〇

注) 特例監理技術者については、現場代理人と兼務できません。

1 兼務する現在契約中の工事について

発注機関名	〇〇土木事務所
工事番号	〇土〇〇
工事名	〇〇〇〇〇〇工事
工事場所	〇〇〇〇〇地内
工期	令和〇年〇月〇〇日から令和〇年〇月〇〇日まで
工種	〇〇〇〇

現在契約中の工事に配置する監理技術者を補佐する者（監理技術者補佐）について

監理技術者補佐氏名	〇〇 〇〇
工種	〇〇〇〇
資格	〇〇〇〇
備考	

注) 監理技術者補佐については、他の工事を兼務できません。